

平成27年度病害虫発生予報第12号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
麦類	うどんこ病	並	並
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 菌核病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 やや少 少 並 やや少 やや多 やや少	並 やや少 少 並 やや少 やや多 並
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	やや少 並 やや多	やや少 並 やや多
いちご (本圃)	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類 (注意報第5号)	並 並 少 多	並 並 少 多
たまねぎ	白色疫病 べと病 (注意報第4号継続) ネギアザミウマ	並 多 並	並 多 並
かんきつ	そうか病 かいよう病 ミカンハダニ	並 少 やや多	並 少 やや多
果樹共通	クワゴマダラヒトリ	少	少
茶	カンザワハダニ	やや多	やや多

【発生予報】 本文の()内は平年値

麦類

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(大麦9筆、小麦15筆)の結果、大麦では発生を認めなかった(発生を認めない)、小麦では発病茎率は0.01%、発生圃場率は6.7%(発生を認めない)であった。

イ 3月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病葉率は4.9%（5.2%）、発生圃場率は25.0%（40.4%）であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病葉率は4.8%（8.7%）、発生圃場率は50.0%（64.6%）であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病葉率は0.2%（4.7%）、発生圃場率8.3%（40.8%）であった。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（発病果率0.0%、発生圃場率2.7%）。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（発病果率0.1%、発生圃場率6.6%）。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は3.7%（1.4%）、発生圃場率は41.7%（25.3%）であった。

イ 向こう1ヶ月の気温は平年より高く、本虫の発生に好適である。

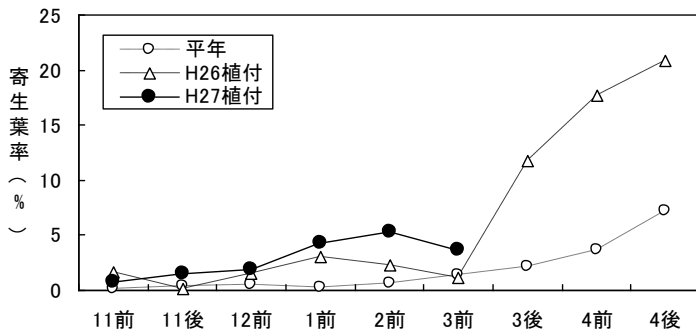


図 きゅうりのアザミウマ類 寄生葉率の推移

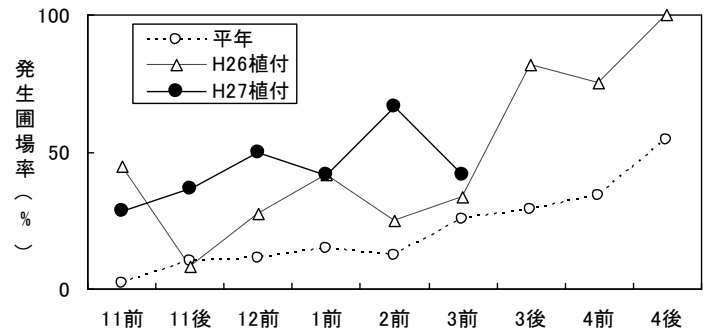


図 きゅうりのアザミウマ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 施設内および周辺の雑草は本虫の増殖源となるので除去し、環境衛生に努める。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。
- ウ 栽培終了後に施設の開口部を7～10日以上密閉して本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.7%(3.1%)、発生圃場率は25.0%(31.3%)であった。
- イ 向こう1ヶ月の気温は平年より高く、本虫の発生に好適である。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.1%(0.5%)、発生圃場率は8.3%(24.0%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.3%(0.3%)、発病葉率は2.0%(過去3ヵ年平均1.2%)、発生圃場率は41.7%(27.8%)であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.0%(過去5ヵ年平均0.6%)、発生圃場率は25.0%(同18.3%)であった。
- イ 向こう1ヶ月の気温は平年より高く、本虫の発生に好適である。

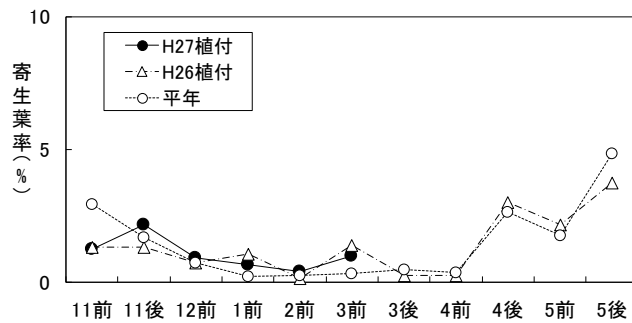


図 トマトのコナジラミ類 寄生葉率の推移

注) 平年はH22～26年の平均値

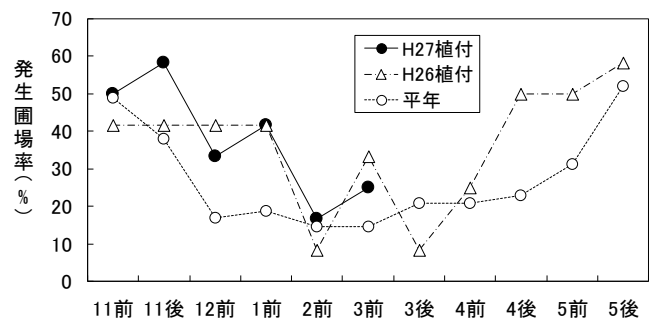


図 トマトのコナジラミ類 発生圃場率の推移

注) 平年はH22～26年の平均値

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 施設内の雑草は本虫の生息・増殖源となるので除去し、環境衛生に努める。
- イ トマト黄化葉巻病の二次伝染を防ぐため、発生初期に防除し本虫の密度をできるだけ低くする。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、葉および果実での発生を認めなかった(発病株率0.0%、発病果率0.0%、発生圃場率2.8%)。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.0%(0.2%)、発生圃場率は14.8%(19.5%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.3%、発生圃場率7.0%)であった。

4. ハダニ類

平成28年3月15日付け**病害虫発生予察注意報第5号**による。

たまねぎ

1. 白色疫病

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠
3月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率は0.3%(0.1%)、発生圃場率は13.3%(5.9%)であった。

2. ベと病

平成28年3月10日付け**病害虫発生予察注意報第4号**を継続。

3. ネギアザミウマ

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠
3月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は16.0%(21.2%)、発生圃場率は73.3%(67.4%)であった。

かんきつ

1. そうか病

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠
3月上旬の巡回調査(36筆)の結果、旧葉での発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率1.7%)。

2. かいよう病

- (1) 予報内容
発生程度 少
- (2) 予報の根拠
3月上旬の巡回調査(36筆)の結果、旧葉での発生を認めなかった(発病葉率0.4%、発生圃場率19.4%)。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容
発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
3月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は7.3%(2.0%)、発生圃場率は33.3%(30.4%)であった。

果樹共通

1. クワゴマダラヒトリ

- (1) 予報内容
発生程度 少
- (2) 予報の根拠
平成27年9月および10月に実施した産卵樹上(アカメガシワ、カラスザンショウ)における幼虫巢の発生調査の結果、県内12地区で発生を認めなかった

(平成17～26年の発生程度の平均値：0.4)。
※以下の基準により発生程度を達観で調査した。
調査基準：極多(5)、多(4)、中(3)、少(2)、極少(1)、無(0)

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は7.3%(1.3%)、発生圃場率は68.8%(31.4%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。

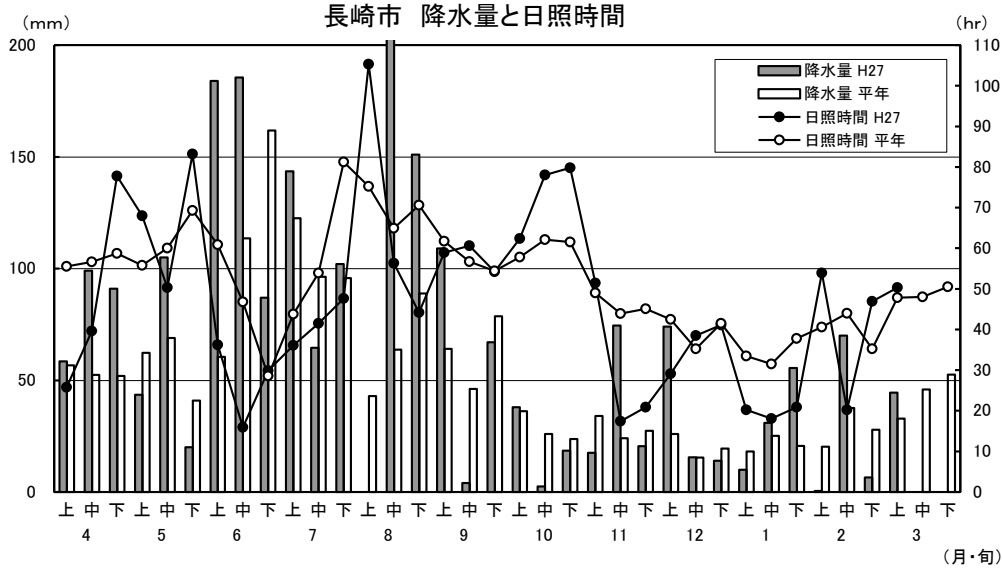
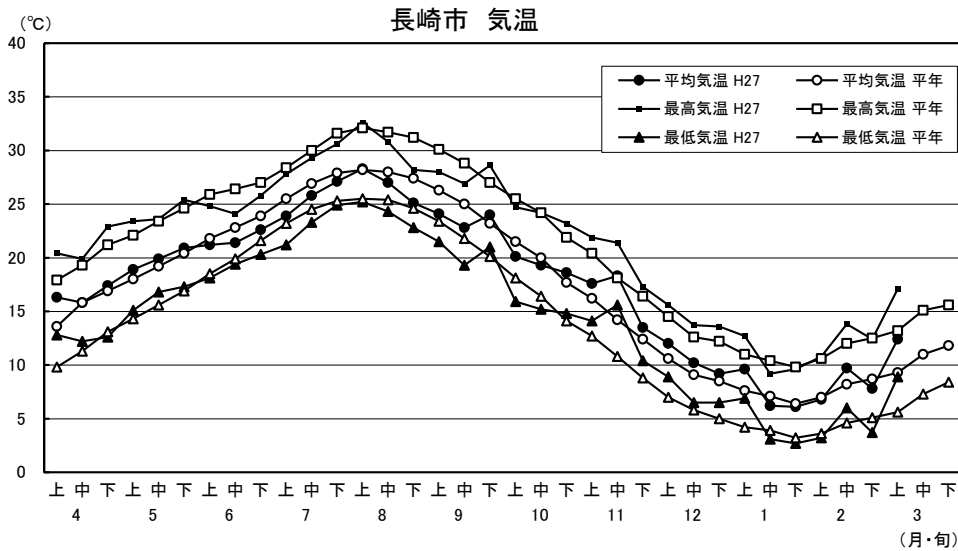
【参考】

気象 (平成28年3月10日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	40	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

※予報対象地域：九州北部地域

平成27年度の気象経過 (長崎地方気象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

